

わが社の NEW! HOPE

琉球通運

比嘉貫太さん

先輩後輩関係なく 頼りになるメンバーになりたい



テンダーの昼夜逆転した生活から現在の日中勤務に切り替わった当初は、苦勞もあったという。「体が慣れるまでに約一か月半を要した。時々遅刻をしてしまい、怒られたこともある」と比嘉さんは振り返る。現在、比嘉

さんは、中型トラックで沖縄県内の食品配送に従事している。「貨物は重いものだとか40〜50キになるので、大変な時もある」としながらも、「先輩たちはフレンドリーに接してくれる。忙しい時こそ笑い合え、毎日楽しく仕事ができる」と語る。

お客さんとのちょっとした会話も楽しいのだという。そんな比嘉さんのリフレッシュ方法は、筋トレと社会人サッカー。仕事終わりに週4〜5日、体を動かして、気持ちの良い汗を流しているという。

「仕事と趣味の疲れは全く違う。日々の疲れをスポーツで解消でき、生きがいになっている」と語る。

そして自身の課題について「会社の顔を背負っているというのを忘れずに、お客さまのもとに貨物が届くまで、ダメージなくきれいに運ぶことを今後心がけたい」としている。

若手の担い手不足が深刻な物流業界について比嘉さんは、「この会社の決め手でもあるが、職場の明るい雰囲気と良好な人間関係は大事」とし、「社員の人柄や入社後の面倒見の良さなどが、若い人の定着率をアップさせるのではないかと指摘する。将来について比嘉さんは「先輩後輩関係なく、頼りになるメンバーになりたい」と笑顔で話している。

(越後桃子)

(レイアウト・早瀬勇二)

琉球通運（喜納秀智社長、沖縄県那覇市）に入社し4年目を迎える25歳の比嘉貫太さんは、全くの異業種からの転職だ。知り合いの紹介で同社へ入社した比嘉さんだが、前職はバーテンダー。国際通り周辺にあるバーで、沖縄のお酒を使ったカクテル等を提供していたという。

同社へ転職したことで、バー